

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【公表番号】特表2004-520016(P2004-520016A)

【公表日】平成16年7月8日(2004.7.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-026

【出願番号】特願2002-532634(P2002-532634)

【国際特許分類】

C 12 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/16	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
C 12 N	1/15	(2006.01)
C 12 N	1/19	(2006.01)
C 12 N	1/21	(2006.01)
C 12 N	7/00	(2006.01)
C 12 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 12 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	35/76	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	25/16	
A 6 1 P	25/28	
C 12 N	1/15	
C 12 N	1/19	
C 12 N	1/21	
C 12 N	7/00	
C 12 N	5/00	A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年11月19日(2007.11.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

2つ以上の内部リボソームエントリー部位により機能的に結合された3つ以上の目的のヌクレオチド配列(NOI)を含むレンチウイルスベクターゲノムであって、NOIが、チロシンヒドロキシラーゼ及びGTP-シクロヒドラーーゼI、芳香族アミノ酸ドーパデカルボキシラーゼ及び小胞性モノアミン輸送体2からなる群から選択されるタンパク質をコードするレンチウイルスベクターゲノム。

【請求項2】

NOIが、チロシンヒドロキシラーゼ及びGTP-シクロヒドラーーゼI、芳香族アミノ酸ドーパデカルボキシラーゼをコードする請求項1に記載のゲノム。

【請求項3】

HIVから誘導することができる請求項1又は2に記載のゲノム。

【請求項 4】

E I A V から誘導することができる請求項 1 又は 2 に記載のゲノム。

【請求項 5】

レンチウイルスベクターが、非靈長類レンチウイルスベクターである請求項 1 又は 2 に記載のゲノム。

【請求項 6】

N O I のうち少なくとも一つが、プロモーター又はプロモーター成分に機能的に結合している請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 7】

自己不活性化 (S I N) している請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 8】

r e v 反応配列を欠失している請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 9】

c P P T 配列を含む請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 10】

転写後調節成分または翻訳エンハンサーを含む請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 11】

N O I はコドン最適化された R N A / D N A 配列である請求項 1 ~ 1 0 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 12】

N O I の少なくとも 1 つが、調節領域を欠いたチロシンヒドロキシラーゼ遺伝子の端を欠いた型を含む請求項 1 ~ 1 1 のいずれか 1 項に記載のゲノム。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のゲノムを含むベクターシステム。

【請求項 14】

i) 請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のゲノムと、

i i) レンチウイルスの g a g 及び p o l タンパク質をコードするヌクレオチド配列と

、
i i i) i i) のヌクレオチド配列によりコードされていない他の必須のウイルスパッケージング成分をコードするヌクレオチド配列と
を含んでなる請求項 1 3 に記載のベクターシステム。

【請求項 15】

レンチウイルス粒子を製造する方法に使用するための請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のベクターゲノム又は請求項 1 3 若しくは 1 4 に記載のシステム。

【請求項 16】

i) 請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のゲノムと、

i i) レンチウイルスの g a g 及び p o l タンパク質をコードするヌクレオチド配列と

、
i i i) 1 つ以上の i i) のヌクレオチド配列によってコードされていない他の必須のウイルスパッケージング成分をコードするヌクレオチド配列と
を、プロデューサー細胞に導入することを含むレンチウイルス粒子を製造するための方法。

【請求項 17】

g a g と p o l をコードしているヌクレオチド配列が、プロデューサー細胞における発現をコドン最適化されている請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 18】

請求項 1 3 若しくは 1 4 のシステムにより製造された、又は請求項 1 6 若しくは 1 7 の方法により製造されたウイルス粒子。

【請求項 19】

異種 e n v 遺伝子によってシュードタイピングされた請求項 1 8 に記載のウイルス粒子。

【請求項 2 0】

V S V - G タンパク質の少なくとも一部をコードする遺伝子によってシュードタイピングされた請求項 1 9 に記載のウイルス粒子。

【請求項 2 1】

請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のゲノム、請求項 1 3 又は 1 4 に記載のシステム、又は請求項 1 8 ~ 2 0 のいずれか 1 項に記載のウイルス粒子を、薬剤学的に許容可能な担体又は希釈剤とともに含む医薬組成物。

【請求項 2 2】

被検対象における疾患の治療及び／又は予防のための医薬組成物の製造における、請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載のゲノム、請求項 1 3 又は 1 4 に記載のシステム、請求項 1 8 ~ 2 0 のいずれか 1 項に記載のウイルス粒子の使用。

【請求項 2 3】

医薬組成物が神経疾患の治療及び／又は予防のためのものである請求項 2 2 に記載の使用。

【請求項 2 4】

医薬組成物がパーキンソン病の治療及び／又は予防のためのものである請求項 2 3 に記載の使用。

【請求項 2 5】

請求項 1 3 又は 1 4 に記載のシステムにより形質導入された細胞。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 9 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 9 1】

本発明の好ましい態様において、ベクターシステムは、狂犬病 G タンパク質の少なくとも一部をコードする遺伝子によりシュードタイピングされる。本発明のさらに好ましい態様において、ベクターシステムは、V S V - G タンパク質の少なくとも一部をコードする遺伝子によりシュードタイピングされる。